

# 飯塚発プログラミング体験会

## 大学生、中高生を指導

飯塚市に理工系の大学生が多い特性を生かして、大学生インストラクター(メンター)がスマートフォンアプリ制作やゲーム開発などを中高生に教える。全国でも例のないユニークな「プログラミング体験会」が進行中だ。3期目の今年は、初年度に参加した高校生が大学生メンターとなって後進を指導する。IT人材を育てる好循環が生まれつつある。

(山本諒)

27日、飯塚市役所の多目的ホールであった学生メンター研修会。3期ある技術を交えながら、対話力の育術研修の2日目で、九州工業大学情報工学部や近畿大産業工学部の学生ら約20人が参加。スマートフォンのアプリ制作と、ゲームプログラミング、webサイト制作、映像制作の4班に分かれ、アイデアを形にする企画に参加し、学生メンターが立案方法を学んだ。として戻ってきた。「先輩プログラミングを学ぶのに優しく教えてもらいたい

## IT人材育成 好循環へ

嘉飯桂地区 来月10日には本年度講座



先輩の学生メンター(左)に映像制作のノウハウを教わる大学生たち

学べるのが魅力。他大学の学生や企業人とのつながりもでき、新しいものを作る意欲が湧く」と話す。プログラミング体験会の中高生が体験会を受講し、38人の学生メンターが生まれた。目指すのは、地域でIT人材を創出するエコシステムだ。同社取締役の讀井康智さん(34)によると、事業は大学生と中高生の育成プログラムが一体となっており、IT分野をリードする学生を育成して地元の高中生に教えることで、さらに次世代の成長を促す仕組みだという。

く映像制作ができた。後輩たちにも自分の経験を伝えたい」と意気込む。飯塚市、嘉麻市、桂川町の山中さんは「都市部ではなく地域で最先端の技術を3自治体が、IT教育事業を全国で展開する「ライブ

イステック」(東京都)に運営を委託し、2016年度から取り組んでいる。ことで「スタートアップ」(起業)の価値観を多く17年度までに計235人(起業)の価値観を多く9月には、大学生と地域、職場企業をつなぐ「つながりカフェ@飯塚」(仮称)が街中でスタートする。こうした取り組みを生かして、大学と企業、自治体がうまく連携すれば、継続的にIT人材を生み出すこともできるというわけだ。

飯塚市産学振興課の担当者は「IT人材が集まる」と夢を膨らませている。読井さんは「中高生から、

中高生のためのプログラミング体験会 6月10日 午前9時～正午と、午後2時～同5時、飯塚市役所で開催。定員は各50人で、飯塚、嘉麻、桂川の3市1町在住か通学が対象。スマートフォンアプリ制作、webサイト制作、ゲーム制作、映像制作の4コースがある。31日午後5時まで、同市のホームページから申し込む。問い合わせは飯塚市経済産業振興課 0948(22)5518。